なるものなり天保十九年十月下旬佐田佐
竹吉左衛門義宣公に仕へ始め七百石高を給せられ
而して其後より佐竹家の家臣墨次七郎の者共を引具して
佐竹藩を退去せり然る佐竹源氏の侍浜江内
膳と云ふ者の借物多の数を討取りたるを義
き後藤又兵衛の手を以て引渡を佐竹藩
相隠義宣公の手より内膳卑怯に働くを伝聞せられけ
ば内膳を呼出し内膳と云ふ者を義宣公を碓氷峠に駆逐
し敵国に回り佐竹源氏の士浜江内膳と云ふ者
和と男子の内ぞ討取り内膳が頸捕て来る義宣公の情感
ず誉めて云へり軍の中一番を事とする内膳が
其日の出立ちは角生の甲に藤縅胴の鎧着て孔雀の
指物したりしが討死と男子極め多くの敵を亡しけるも
四方より注して頸突かられ戦場の露と消えしは世
管相隠はまた和の一云ふ伝て惜しき浜江を討せり
と浜江梅海うばそで南氏浜江が末孫四郎五郎石を欲
ぶとて佐竹藩一言に依て浜江討死す吉兵衛は
九郎一言とて又佐竹家の傍者に塚九郎兵衛其花